

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 コミュニティ看護学分野	修了年度	平成 29 年度
氏名	小野寺 淳史	指導教員 (主査)	板山 稔 (土井 徹)

論文題目	精神科病棟機能別による看護師の職業性ストレス及び職務満足度の相違の特徴
------	-------------------------------------

本文概要

【目的】精神科病棟に勤務する看護師の業務上ストレスとストレス反応および職務満足度について、精神科病棟の機能別の相違を明らかにする。

【方法】全国の精神科病院の中から、精神科一般病棟、救急・急性期病棟、療養病棟、認知症病棟、児童思春期病棟、アルコール依存症病棟で勤務する看護師 2347 名を対象とした。ストレス、ストレス反応、職務満足度について、無記名の自記式質問紙を用いて郵送法により調査した。病棟間比較の分析には、Kruskal-Wallis 検定と Bonferroni の多重比較検定を行なった。

【結果】有効回答数は 1130 通であった。業務上ストレスについては、「コミュニケーション」について、児童思春期病棟が他病棟と比較して有意に高値であった。また、「患者の態度」は、認知症病棟が有意に低かった。ストレス反応については、6 分類全てに有意差はみられなかった。職務満足度に関しては、仕事上の人間関係の「医師との人間関係」、専門職性と看護師としての自己実現について、児童思春期病棟が他病棟と比較して有意に高値であった。

【考察】ストレスの相違の特徴がストレス反応の相違として認められなかった背景には、勤務する病棟での経験年数の長さが影響していることが考えられる。児童思春期病棟においては、患者の病歴的背景や発達段階の特徴により、看護師はコミュニケーションについてストレスを感じる。しかし、児童思春期という成長発達のライフステージにある患者をケアすることで、患者の看護師自分自身が成長することや退院支援にやりがいを感じ、満足度につながることを考えられた。

【結論】各病棟での経験年数の浅い看護師に対しては、ストレス対策や支援が重要になる。特に思春期病棟では、患者とのコミュニケーションによるストレスが、高いストレス反応を引き起こさず、満足度の向上につながるような支援が重要である。

【Key words】精神科看護、病棟機能別、職業性ストレス、職務満足度